

## 教育分野に関する理論と支援の展開

《担当者名》冨家 直明(tomie@hoku-iryo-u.ac.jp)

### 【概要】

教育分野における公認心理師の業務として、教育に関する心理学に関する理論や方法を理解し、分野の特徴や文脈に合わせながらそれらを実践する力を身につける。

### 【学修目標】

教育現場において生じる問題とその背景を理解し、説明できる。

教育行政、教育関連法規、内発的及び外発的動機づけ、自己効力感、原因帰属、適性処遇交互作用、セルフモニタリング、学習性無力感、不登校、学級崩壊、いじめ、非行、子どもの自殺など、に関する知識の獲得

教育現場における心理社会的課題と必要な支援の実践について概説できる。

学業不振、スクールカウンセリング、キャリアカウンセリング、教育関係者へのコンサルテーション、アセスメント、チーム学校（多職種連携）、学生相談、緊急支援、健康教育など、に関する知識及び技術の習得

自律発展的学習姿勢の確立ができる。

自己理解を深め、自己研鑽を通じて自律発展的学習姿勢を獲得する

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	教育行政と諸課題	学校設置の法体系、教育行政制度の仕組み、それらに関わる諸課題について概観する。日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地教行法の要点を理解する。	冨家 直明
2	教育行政と諸課題	自治体の教育行政執行方針、中央教育審議会、教育委員会制度、生徒指導提要、GIGAスクール、令和の日本型学校教育、こども家庭庁の要点を理解する。	冨家 直明
3	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリングの理論と歴史を概観する。	冨家 直明
4	キャリアカウンセリング	サピカスによるナラティブアプローチを例に、キャリアカウンセリングの技法を体験的に理解する。	冨家 直明
5	認知的感情制御理論	認知的感情制御理論の背景とスクールカウンセリングへの応用を考える。	冨家 直明
6	自己調整学習理論	自己調整学習理論の背景とスクールカウンセリングへの応用を考える。	冨家 直明
7	非認知	非認知に関わる理論を概観し、スクールカウンセリングへの応用を考える。	冨家 直明
8	社会情動理論	社会情動理論の背景を理解し、スクールカウンセリングへの応用を考える。	冨家 直明
9	学校適応理論	学校適応理論の背景を理解し、スクールカウンセリングへの応用を考える。	冨家 直明
10	成人学習理論	成人学習理論の背景を理解し、スクールカウンセリングへの応用を考える。	冨家 直明
11	スクールカウンセリングの実際	スクールカウンセリングで用いられる面接、アセスメント、情報共有に関する技術を習得する。	冨家 直明
12	スクールカウンセリングの実際	スクールカウンセリングで用いられる面接、アセスメント、情報共有に関する技術を習得する。	冨家 直明
13	スクールカウンセリングの実際	スクールカウンセリングで用いられる面接、アセスメント、情報共有に関する技術を習得する。	冨家 直明
14	教育分野における心理支援に関するエビデンス	教育分野における心理支援に関する効果の検証をメタ分析を通じて実施する。	冨家 直明
15	教育分野における公認心理師国家試験の概要	公認心理師試験および同制度における教育分野の臨床活動の特徴を知ると共に自律的学習の計画を立てる。	冨家 直明

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

レポート(100%)

【参考書】

生徒指導提要(文部科学省)

最新教育動向2023 必ず押さえておきたい時事ワード60&視点120 明治図書出版

【学修の準備】

【学修の準備・事後学修】(合計240分) 本科目は2単位科目であり、1回につき4時間の授業時間外学習が必要です。生成AI(Gemini等)を「専属の家庭教師」として活用し、以下のサイクルを推奨します。

1. 予習(約90分): テキストや参考資料を読む。生成AIを活用して講義テーマの「社会的背景」や「関連キーワード」を調査し、自分なりの「問い」を立てる。

2. 事後学修(約150分): テキストや参考資料を読むほか、図書館を活用して広く参考文献にあたる。講義内容をAIに要約させる。AIに「理解度確認クイズ」を作成させて回答し、間違えた箇所をさらにAIと議論して解消する。TA・教員への質問をしたり意見交換をすることも推奨します。

なお、学修活動の証明として、AIとの対話ログ(履歴)や、AIの回答を元に作成した独自の学習ノートの提出を求めたり、感想を聞くことがあります。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 心に関わる社会的諸課題について臨床心理学や関連諸科学の学修を通じてそれらの解決方法に関するアプローチを立案し実行する能力を有している。

DP4. 地域ならびに臨床施設において省察的科学者-実践家モデルの理念に即した心理支援の行為ができる。

上記、心理科学研究科臨床心理学専攻(修士課程)ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師としてスクールカウンセラーの経験を有する。

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としてのスクールカウンセラーの経験を反映させた授業を行う。